

島根県立石見美術館

コレクション展「小さな宇宙 根付」の開催について

島根県立石見美術館では、コレクション展「小さな宇宙 根付」を下記の通り開催いたします。つきましては、ご多忙のところとは存じますが、取材及び報道方よろしくお願いたします。

記

1. 会 期 平成 30 年 5 月 9 日 (水) ~ 7 月 16 日 (月・祝)

休館日：毎週火曜日

開館時間：10:00~18:30 (展示室への入場は 18:00 まで)

2. 会 場 島根県立石見美術館 展示室 B (グラントワ内)

3. 展覧会の概要及び見どころ

「根付」とは、江戸時代の男性が印籠や巾着などの、いわゆる「提げ物」を着物の帯に提げる時、落ちないようにその紐の先に付けて帯に挟んだ留め具のことをいいます。着物が日常着だった時代だからこそ生まれた実用品ですが、江戸の豊かで粋な人々の間では、持ち主のセンスをうかがわせるような洒落のきいたもの、縁起もの、古典的な題材のものなどが好まれ、多種多彩な意匠の根付が作られました。しかし明治以降、洋服の普及とともに実用性を失い需要が激減します。一方でその芸術性の高さが外国人収集家の目に留まり、多くの根付が海外に輸出されました。掌におさまるほどのサイズである根付は、まさしく「小さな宇宙」に例えられるほど独特の世界観をもち、その魅力が今も多くの人々を惹きつけています。今回は石見根付を中心とした江戸期の「古根付」と、戦後、観賞を主とした芸術作品として制作され続けている「現代根付」をあわせて展示します。(展示点数約 40 点を予定)



富春《鮑に蟹》寛政 7 年 (1795) 象牙 島根県立石見美術館蔵